

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園            |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10グレイス1 1F |
| 法人名   | 株式会社ライフらび            |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「知育」小学館メソッド 「五感」で楽しむ楽習活動・表現  
(絵本) おべんとうバス

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
絵本を見ることが好きな子どもたちで「だるまさんが」を初め様々な絵本に興味を示すようになった。その中でおべんとうバスは「はーい」と返事をして子どもたちと一緒に絵本の世界に入り込んで楽しんでいる姿が多く見られたためもっと発展していきたいと考えたため。また、園の強みとしては今回の絵本を使った表現遊びでも一人ひとりの反応や動きを大切にしながら進められるため初めは見てのみの子ども、少しずつ真似をする子ども、自分なりの動きを楽しむ子どもなどそれぞれの姿を受け止め、無理なく参加できる環境を作ることができる。小規模園ならではの家庭的で温かい雰囲気の中で子どもたちが安心して体を動かし、自分らしく表現する楽しさを感じられることです。

## 2. 活動スケジュール

### ①導入

- ・絵本「おべんとうバス」読み聞かせ
- ・大型絵本も読む。
- ・食べ物が出てくるたびに「はーい」と一緒に返事
- ・バスごっこへの期待を高める

### ②展開1、電車ごっこ

- ・貨物列車を行う。
- ・保育士ごと(3チーム)の列車を作り、連なって室内を貨物列車の歌を歌って歩く。

### ③展開2、バスごっこ

- ・「バスに乗って」の音楽に合わせて保育士の膝に乗ったり立って体を動かすことを楽しむ。
- ・保育士が一人ずつ名前を呼ぶ。おかずの部分を「○○ちゃん」「○○くん」
- ・呼ばれたら「はーい」と返事をして順に椅子に座る。
- ・全員乗車したら「しゅっぱーつ」の声かけで出発。

### ④展開3、リズム・表現

- ・「おべんとうバス」の歌や手遊びを行う。
- ・バスになって部屋を走る。
- ・止まる、出発など動きを楽しむ。

### ⑤まとめ

- ・「みんなで乗って楽しかったね」
- ・給食への期待に繋げる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵本で読み聞かせを行った。(大型絵本も使用した)
- ・子どもが自由にいつでも手に取って読むことができるように本棚に設置した。
- ・パネルシアターを作った。
- ・歌を歌って名前を呼び自分の名前を呼ばれることで楽しく参加できるようにする。

### 4. 探究活動の実践

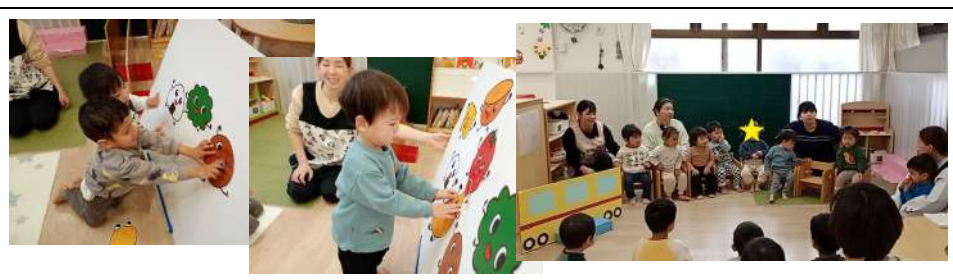
<活動の内容>

- ・絵本「おべんとうバス」の読み聞かせを行い、バスごっこへの期待を高める。
- ・保育士を先頭に貨物列車あそびを行う。後ろに繋がり室内をゆっくり歩いて進む。
- ・途中で停車や再出発をくり返し、みんなで繋がって動く楽しさを感じる。
- ・椅子を並べてバスの形を作り、子どもの名前を一人ずつ呼びながら順番に座る。
- ・全員が乗車したら「しゅっぱーっ！」の掛け声でバスごっこを楽しむ。
- ・パネルシアターでそれぞれ名前を呼ばれたら登場し、好きなおかずを一つ貼ってお弁当を完成させる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・絵本の読み聞かせを行いながらおかず一つひとつの登場シーンで「はーい」と手を挙げて返事をする。
- ・最後のお弁当の場面では実際に手を合わせて「いただきます」をし、子どもたちの近くに絵本を近づけて手を伸ばして好きなおかずを子どもたちが食べる真似をして楽しんでた。おかずを選ぶ時にも「〇〇おにぎり～」というように楽しむ姿もあった。
- ・バスごっこでは「おべんとうバスが走ります～♪」という曲に合わせて登場してきて名前を呼ばれ返事をしてパネルに一人ずつおかずを貼るパネルシアターを使っの遊びを行った。自分たちでおかずを貼ることやみんなでお弁当を完成させることに喜びを感じていた。



### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「はーい」と返事をして子ども参加型の方がより楽しんで絵本の世界に入り込むことができていた。簡単な言葉がくり返しあるので子どもたちも何度も読んでうちに台詞を覚えて一緒に口ずさむようになっていた。また、子どもたちの名前を一人ずつ呼ぶことで友達への興味関心も深まり、呼ばれた事への嬉しさを感じながら恥ずかしそうに照れながら返事をする子どもや自信を持って大きな声で返事をする子どもなどさまざまな姿が見られた。最初は恥ずかしくて手を挙げるだけだった子どもも何度も繰り返すうちに自信に繋がって胸を張って返事することに繋がっていったと成長を感じることができた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 施設名   | 浦田らびっと保育園            |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10 グレイスⅠ1F |
| 法人名   | 株式会社ライフらび            |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「知育」小学館メソッド 「五感」で楽しむ楽習活動・表現  
(絵本) 「だるまさんが」

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
絵本に興味を持って見ている姿があり、「だるまさんが」を子どもも参加しながら楽しんで見ていたため。また、保育士の真似をして体を動かして楽しんでいる姿もあったことから設定した。絵本から色や言葉などさまざまな興味が広がっていくようにとも願いを込めて。園の強みとしては小規模保育園であるため一人ひとりの発達や興味に寄り添いながら丁寧に関わることができます。そのため、子どもの人数が少なく、全員が安心して表現できる環境、保育士との距離が近く、模倣ややりとりを楽しみやすい、子どもの「やってみよう」をすぐに活動に取り入れられる柔軟さが挙げられる。

## 2. 活動スケジュール

### ①導入

- ・「今日はだるまさんの絵本を見るよ」と期待を高める。
- ・「だるまさん知ってる？」とやりとり。

### ②絵本の読み聞かせ

- ・『だるまさんが』をゆっくりと読む。
- ・「だ・る・ま・さ・ん・が」で体を揺らす。
- ・「どてっ」「びろーん」で一緒に真似する。
- ・大型絵本を読む。

### ③表現遊び

- ・だるまさんになりきる。「ゆーらゆら」「どてっ」
- ・立つ、座る、寝転ぶなど簡単な動き。
- ・ペープサートに合わせて同じ動きをしてみる。
- ・保育士の声掛けで全身を動かす。

### ④みんなでだるまさんごっこ

- ・保育士が「だるまさんが～」と声をかけ子どもが「どてっ」など一緒に動く。
- ・好きなポーズを楽しむ。

### ⑤まとめ

- ・「楽しかったね」と共感。
- ・もう一度好きなページを見る。
- ・次の活動へ落ち着いて移行。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵本で読み聞かせを行った。
- ・子どもが自由に手に取って見ることできるように本棚に設置する。
- ・大型絵本を読む。 ・ペープサート、パネルシアターを作る。
- ・歌を歌って名前を呼び自分の名前を呼ばれることで楽しく参加できるようにする。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- 1、絵本の読み聞かせ
  - ・ゆっくりとリズムをつけて読む。
  - ・「だ・る・ま・さ・ん・が…」で子どもと一緒に揺れる。
- 2、だるまさんになりきり遊び
  - ・だるまさんの動きを真似する。
  - ・「どてっ」「びろーん」など体で表現。
  - ・座る、立つ、転がるなど簡単な動き中心。
- 3、みんなでだるまさんごっこ
  - ・保育士の声掛けに合わせて動く。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・絵本や保育士が揺れる姿に合わせて体を揺らしてみたり、「どてっ」「びろーん」と横に倒れてみたり、手を伸ばしたりしている姿があった。
  - ・楽しくなってくると立って表現する子どももいた。
  - ・実際のだるまさんがころんだのように立って少し歩いて前に進みながらペープサートで見せるだるまさんの「どてっ」や「びろーん」のポーズで止まって表現を楽しんでいた。
  - ・「どてっ」と表現する時に楽しくなり声を出して笑う姿や友達や保育士が表現している姿を見て興味を持って真似して体を動かす子どもが増えてきた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・じっくりと絵本を見ることが難しかった子どもたちだったが、だるまさんがをきかけに体を動かして表現して見ることができまざまな絵本への興味も広がっていった。
- ・体を動かして表現できる繰り返りリズムのある絵本や歌絵本が子どもたちの興味を惹くことがわかった。そこから子どもたちの興味のある乗り物の「はたらくくるま」や「まいごのこねこちゃん」「猫のピート」「はらべこあおむし」など歌絵本に広がっていった。
- ・友達や保育士と同じ動きを真似することの楽しさや一緒に同じ遊びをすることを楽しさを感じることができていたと感じる。また、少しずつ長い物語の絵本へと広げていきたいと思った。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |              |
|-------|--------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園    |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10 |
| 法人名   | 株式会社ライフらび    |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

### 音育活動 Let,s リトミック

<テーマの設定理由>

- ・ 男児6名、女児2名、計8名の2歳児クラス。
- ・ パワフルで勢いのある力強さを感じる子どもが多い。
- ・ クラスの半数近くが外国籍の子ども。

言葉が通じていないわけではないけれど、話があまり伝わっていないかもしれないという様子が見受けられる。そのためか、保育士が話をしても走り回っていたり、大きな声でしゃべり続けている子もいれば、おもちゃで遊んでいる子もいる。

クラス内がザワザワした状態で子ども同士のトラブルも多く、必然的に保育士の声掛けは大きくなり、制止する言葉も多くなる。

このような環境で「一日のなかで短い時間でも、心を落ち着ける時間はあるか」「人の話を聞ける環境を作ることができないか」と保育士間で保育内容について話し合いを重ねていく。その話し合いのなかで・・・

- ①走り回ったりジャンプをしたり、身体を動かすことが好きでいつも動き回っている姿が見られるのであれば、存分に体を動かして動きを制止されないような活動を取り入れてみたらどうか
- ②クラス全員が落ち着かないわけではない。なかには集中して活動に取り組んでいる子もいれば、人前で歌ったり踊って拍手をもらうことに喜びを感じている子もいる
- ③園の強みとして、リトミックを専門に学んだ保育士がいる

上記の件を踏まえて、何度か日々の活動の中にリトミックを取り入れた。

気分が高揚して危険な時以外は、子どもたちの行動を制止せず、保育士も見守りながら一緒に活動する中で、子どもたちの目の輝きや大人が想定した『ねらい』を超えた自由な発想で表現することを喜ぶ姿を確認することができた。

身体を動かすことが好き、歌うことが好きというクラスの子どもたちの強みを生かし、リトミックを継続的に行うことを決める。身体を動かすことでイメージ、バランス、リラックスなどさまざまな感覚を体験することができ、想像性や創造性をはぐくみ表現することを楽しめるのではないかと。また動きを楽しむためには、心を集中して耳を傾けて「聴く」ことが大事であるため、子どもの姿に変化が見られるのではないかと

## 2. 活動スケジュール

◎令和6年6月～令和7年2月

◎月2回 水曜日の10:00～ 20分～40分程度の活動時間を設定

◎以下のねらいで、継続的に行っていく

- ・音（音楽）を聞いて体を動かそう
- ・身近な物の名前をリズムでおぼえよう（2拍子・3拍子・4拍子）
- ・季節の歌や子どもの歌（童謡）に親しみ、楽しく歌う
- ・さまざまな楽器に触れてみよう

◎おへんじあそび

◎音楽を聞いて体を動かそう・即時反応（手をたたこう、歩こう、走ろう、転がろう...）

◎ジャンプ、スウィング、ギャロップなどの動きを楽しもう

◎表現あそび（音楽を聞いてうごいてみよう）

◎ボールであそぼう

◎フープであそぼう

◎リズムあそび（いろ・かたち・たべもの・のりもの・どうぶつ...）

◎楽器と触れ合おう

◎一緒に演奏してみよう 等

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

### ＜＜環境設定＞＞

◎体を動かすために十分なスペースを確保する

◎活動前には安全に配慮し、机や椅子、ジョイントマットを片づける

＜＜準備物＞＞ \* 楽器や素材は、活動内容、ねらいに応じて準備する

◎ピアノ

◎カスタネット

◎タンブリン（保育士用）

◎鈴

◎タンブリン（子ども用）

◎マラカス

◎カラスカーフ（個人用・大判）

◎シロフォン

◎パラバルーン

◎ビブラフォン

◎ボール

◎ウッドブロック

◎フラフープ

◎ギロ

◎各種絵カード

◎カラーボード

◎各種ペープサート

◎絵本

◎各種パネルシアター

等

#### 4-1. 探求活動の実践

活動の内容//活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

## おへんじあそび

### 《活動の内容》

- ①保育士が「」のリズムでクラップしながら「〇〇ちゃん」と子どもの名前を呼ぶ。呼ばれた子も同じリズムでクラップしながら「はあい」と返事をする。
- ②子どもと保育士が向かい合って、「」のリズムで「〇〇ちゃん」と名前を呼びながらボールを相手に手渡しする。相手も同じリズムで「はあい」と応えボールを相手に渡す。（赤字のタイミングでボールを相手に渡す。）
  - ・「どうぞ」「ありがとう」など言葉を変えてのやり取りを楽しむ。
  - ・声の大きさ（強い・弱い）や、速さ（遅い・速い）をいろいろと変化させて楽しむ。
  - ・はじめは保育士と子どもで、慣れてきたら子ども同士で行う。

### 《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

返事をしながらクラップする（ことばと手拍子の連動）ことがねらいだが、二つのことを同時に行うことは想像以上に難しいので、「できた」「できない」は気にせず、人前で自分を表現することの喜びを感じ、自信につながるように保育士みんなで盛り上げ褒めていく。始めは恥ずかしさから声がでない子もいた。保育士のかげに隠れたり、後ろを向いて顔を隠したり、照れ隠しで踊り出す子などさまざまな反応が見られた。

リトミックは毎回おへんじあそびからスタートするので、3回目ぐらいには要領もわかってきたのか、得意気に「はあい」の返事が聞かれるようになってきた。保育士の真似をして「〇〇ちゃんおへんじじょうずだねー」「すてきーすてきー！いい声だったよ」などの言葉が子どもたちから聞こえるようになる。始めは照れてできなかった子が、「はあい」と返事をした時には、その場にいた全員が「すごーい！できた！」と一斉に拍手をしてみんなで喜ぶ姿が見られた。

毎回繰り返すことで慣れからか、ねらいとは大きくはずれ自分でアレンジし、いかに個性を出した返事ができるかを披露しあうこともあった。ジャンプをしながら返事をしたり、変顔をしたり、友だちが笑ってくれることを喜び、自信をつけていくことを感じた。

秋ごろになり子どもたちも少し落ち着いて活動できるようになってきたところで、当初のねらいを子どもたちに伝え、返事をしながらクラップすることにチャレンジしていく。

回を重ねるごとに、ことばとクラップの連動ができる子が増えてきている。



## 4-2. 探求活動の実践

活動の内容//活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

### 即時反応（ボールであそぼう）

#### 《活動の内容》

- ①一人ひとり好きな色のボールを持つ
- ②ボールを落とさないようにしっかり持って、ピアノの音楽に合わせて歩く
- ③♪の音楽のときはボールを抱えて、♪の音楽のときはボールを頭に乗せてかけあし、  
の音楽のときにはボールを重そうに持って大股でゆっくり歩く
- ④音楽が止まったらSTOP、音楽が始まったらGoなど、音に即時に反応する

#### 《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

##### ★～★初回の活動の様子★～★

自分の好きな色のボールをもらって「ぼくきいろ!」「わたしはピンクよ!」と大喜び。活動に集中できるように、心行くまでボールと触れ合い満足したところで活動に入る。曲が聞こえてくると、ボールを落とさないように大事そうに抱えながら、真剣な顔、嬉しそうな笑顔とさまざまな表情を見せながらリズムにのって歩きはじめる。

曲の途中で♪から♪♪のリズムに変化しても、ほとんどの子どもが気づかずに軽快に歩いていたが、「あれ?ピアノ速く(遅く)なってるよ」と保育士が声をかけると「あれっ?」「ほんとうだ!」と慌ててピアノの音に合わせてようとする姿が見られた。♪のリズムに動きをあわせることが難しく、曲のテンポ関係なく高速で走り興奮状態となってしまったため中断。一息ついてまた♪のリズムで活動再開。テンポを変えたり、Go&STOPを繰り返し行った。リトミック後、「わたし ボール落とさないであるけたよ」「ぼく はやかったでしょう!スピードだしちゃった」「しんかんせんみたいに はやくはしれるんだよ」「リトミックまたやろうね」と楽しんで参加していた様子が伝わってきた。

##### ★～★2回目以降の活動★～★

同じ活動を繰り返し行うことで、徐々にリズムの変化を聞き取れるようになってくる。リズムから感じるニュアンスを思い思いに表現することを楽しむ姿が見られるようになってきた。

「  
」のリズムでは軽快に歩き、「  
」にリズムが変わると重い音のイメージ

を大股でどっしりした歩きで表現するなど、自分の耳でキャッチしたものを身体で表すことが楽しい様子であった。

1・2月の後期の活動では、音を聞くことに集中することが上手になってきていることを感じる事ができた。



### 4-3. 探求活動の実践

活動の内容//活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

## スカーフであそぼう（表現あそび）

### 《活動の内容》

- ①各自好きな色のスカーフを選ぶ
- ②スカーフの素材や感触を楽しみながら、イメージをふくらませ自由に遊ぶ  
・ゆらゆら揺らす、投げる、顔にかぶる、グルグル回す...など
- ③スカーフを持って歌をうたう・・・自由表現  
・どんな色がすき（スカーフを揺らしたり、振ったりしながら）  
・ちょうちょう（蝶の羽にみたくて、ひらひらさせて）  
・チューリップ（スカーフを丸めてチューリップに見立てる）  
・ぞうさん（スカーフを鼻や耳に見立てて） など
- ④ピアノのメロディからイメージしてさまざまな動物の動きを表現する

### 《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

数あるリトミックの課題の中でも、カラースカーフを使った活動は子どもたちの大好きな活動のひとつ。活動初期は、スカーフの色の取り合いでなかなか遊びがスタートできなかったが、秋頃から個々の成長とともに、遊び方の説明をしなくても、スカーフを手にとるとみんなが自然に素材の感触を楽しみながら、揺らしたり、走って風になびかせてみたりとそれぞれが表現することを楽しんでいる。音楽が聞こえてくると、テンポに合わせて上下左右に揺らしたり、やさしいニュアンスの曲では、スカーフをゆったりと「ふわっ」と揺らしたり、元気な音楽では速く・力強く動かすなど音の違いを体感しながら遊んだ。

音楽に合わせて、スカーフを揺らしながら歩いているとピアノから聞こえてくる雨の音。すばやく反応し、「あめだ！あめだ！」「たいへん、ぬれちゃうよ」「すかーふあたまにのせて！」などと言いながらかけあしを始めた。リトミックの様々な課題を体験していくなかで、音を聞いて即時に反応する耳が育っている。

散歩→雨が降ってきた→雨上がり散歩再開→散歩中ゾウと会う...など即時反応と身体表現でイメージをふくらませながら繰り返し遊ぶ。スカーフをつかうことで、視覚的、感覚的により楽しめ、集中して遊びが持続・発展していくことを感じた。



#### 4-4. 探求活動の実践

活動の内容//活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり

### ♪きれいな音がするね♪（楽器あそび）

#### 《活動の内容》

- ①子ども用のタンブリンを人数分準備する
- ②自由に叩いてみる「どんな音がするかな?」、叩き方で音が変わることに気づく  
・手のひらでやさしくタッチ、指でタッチ、力いっぱい叩く、グーで叩く、振る... など
- ③おへんじあそびをタンブリンを使っておこなう
- ④音楽に合わせて叩いてみる 『しあわせなら手をたたこう』『おもちゃのチャチャチャ』
- ⑤鈴、カスタネット、マラカス、ウッドブロック、ギロなどの楽器に触れる、名前を知る
- ⑥好きな楽器を持って演奏しよう!

#### 《活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり》

「えんちょうせんせいとおんなじ タンブリン みんなのあるの?」「やったー!」「わたしたち こどもだから ちいさい タンブリンなんだね」「かわいいね」など自分用の楽器をもらい大興奮。宝物に触れるように緊張した面持ちで早速音を出してみた。いつものお返事あそびを、クラップからタンブリンに置き換えてみる。毎回行っている活動だが、タンブリンを持ったことで緊張して表情がやや硬くなったり、子どもたちのいつもと違う一面が見られたことが新鮮だった。大きい音、小さい音、速く、遅くなど叩き方に変化を持たせ、「.....」と保育士と一緒に音をあわせることを楽しむ。

初めは音を出したい気持ちが強すぎて話を聞くことができなったり、乱暴に楽器を扱う子どももいたが、「つよくたたくと うるさいよ」「やさしくたたいたほうが きれいなおとだよね」など何度か同じ活動を繰り返すなかで、保育士が注意しなくても自分たちで感じ、伝えあう姿が見られるようになった。経験を重ね徐々に使い方をおぼえ、友だちや保育士の姿を見ながら音をあわせようとする姿も見られるようになってきた。

「あるきながら たたいてみようよ!」「ジャンプしながら たたくのはどう?」「となりのともだちの タンブリンを たたいてみよう」など、子どもからあがった様々な提案の声



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

◎リトミックがスタートしたばかりの頃は、子どもを集めようと声をかけても、一人が座ればまた別の子が走り出し・・・を繰り返し、活動を始めるまでに時間がかかってしまっていた。しかし、そんななかでもピアノの音が聞こえると一斉にピアノのまわりに子どもたちが集まり、保育士が弾いている様子を食い入るように眺めたり、ピアノに触り音を出してみたりと、興味津々の様子を見せていた。ピアノに触ってみたい欲求を十分に満たせてあげられるよう、一人ひとりピアノの椅子に座って自由に触れる時間を設けると、ピアニスト気分ですいすいに音を出し、本当にうれしそうに得意気に音を出す姿がみられた。

興味を持ったことを満足するまでやり切ったとき、落ち着かず室内を走り回っていた子どもが集まって、「次は何がはじまるのかな？」と真剣なまなざしを向ける姿がみられ、あらためて『音楽の力』を感じた。

◎年間カリキュラムを作成し、ねらいを持って活動を行うが、保育士が意図したねらいとは別の流れになることがある。そのようなときには、子どもたちの声をできるだけ拾い上げ、それをどのように活動のねらいと結びつけていくかを臨機応変に考えて、取り組むことができた。子どもの発見を「それいいね」と保育士が取り上げてくれたことで、子どもは自信をもち、さらにいろいろな気づきを言葉で発してくれるようになってきた。大人が子どもの動きを想定しながら用意してきた活動内容より、子どもの発想が想定を上回るケースもあり、子どもが今どんなことに興味や関心をもっているのか知る手掛かりにもなる。この気づきをリトミックに限らず今後の保育にいかしていきたいと感じた。

◎大人になると、人の前で自分の感じたことを身体で表現する『身体表現』にハードルの高さを感じてしまう。人と違う表現をする事に対して恥ずかしさを感じ『人に倣え』とまわりと同じような表現をしてしまうが、子どもは自分が思ったり感じたことをまわりの目を気にせず、自由な発想で生き生きと表現している。他者にとらわれず、他者と違うことを楽しんで『自分らしさ』を表現できるよう、一人ひとりの個性を受け止めて大切に育ていけるような関わりをしていきたい。

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園              |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10 グレイス I 1階 |
| 法人名   | 株式会社ライフらび              |

### 活動のテーマ

<テーマ>

季節を感じる「食」

<テーマの設定理由>

食習慣を整えるために大切な時期である乳児の子どもたちをお預かりしている当園では、毎月、主に「旬のもの」を意識した乳児向けの内容の食育活動を実施しており、その活動から意欲的に食べる子どもが多い。すくわく活動(食育活動)を通じて職員にとっての気付きと学びを深め、乳児の子どもたちへわかりやすく伝えるアイデアが引き出せれば良いと思う。

また当園は毎年一定数の外国籍の子どもが入園しており、日本の味(調味料)に馴染めず偏食になりやすいため、旬の食材は素材そのものの味をおいしく味わえる食材が多いので、外国籍の子どもたちも食べやすいと感じる。一方で、日本の子どもたちは素材そのものの味を食べる経験が少ないと感じることが多いので、一番おいしくなる旬のものをテーマに、素材を味わう機会を作りたいと思う。

そして、季節と食を繋げることで、行事を知ることや、日常の感覚(気温や景色、植物など)から食材を連想する豊かな心を育てることをねらいとする。

### 活動スケジュール

7月 とうもろこしにふれよう  
8月 夏やさいにふれよう  
9月 きのにふれよう  
10月 いもほりをしよう  
11月 お米にふれよう  
12月 クリスマスケーキを作ろう

## 【とうもろこし】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・とうもろこしの絵本や手遊びの導入。
- ・部屋に写真を貼って、目にする機会を増やした。
- ・献立に数回とうもろこしを提供する日を入れた。
- ・とうもろこしの購入。

### 探究活動の実践

6月中旬～7月

とうもろこしの導入開始。

とうもろこしの絵本を読んだり、お部屋にとうもろこしの写真を貼ったり、とうもろこしを目にする機会を増やしていく。

食育活動当日に行う手遊び「くいしんぼうのゴリラ」とうもろこしver. を子どもたちと一緒に楽しむ。

7月

とうもろこしをテーマにした食育活動を実施。

絵本や手遊びを楽しんだあと、皮とヒゲがついた状態のとうもろこしを観察しながら触れ、感触や香りを感じた。

自ら皮をむくことを楽しみ、むきながら外側内側の色の違いを知った。

とうもろこしが生る高さを画用紙で表現し、大きさを知った。

おやつは茹でとうもろこしを食べ、みんなで旬の味覚を味わった。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

1歳児は、触れる実践では、最初はとても警戒して近づこうとしなかったが、保育士が先に触れて楽しむ様子を見せることで、一緒にやり始めてすぐに馴染んでいた。握力がある子は自分でどんどん剥いていき、難しかった子ども少しの補助で剥くことができ、楽しんでいた。

2歳時は、導入の効果で、手遊びをととても楽しんで一緒に行うことができた。触れる→観察する→皮をむく とスムーズに、とても集中して取り組んでいた。土の香りや、皮とひげの感触、それぞれの部位の色の違いを職員が問いながら、様々な視点で観察を行い、感想を伝え合っていた。ほとんど補助を必要とせず、自分でやりきる達成感と満足感を得ることができたと思う。実食でもとても喜んで食べ、旬の味覚を知り、たくさんおかわりをして、食欲にも繋げることができた。



### 振り返り

1歳児は、食材そのものへの興味から始まるよりも、信頼する保育士が楽しむ様子を見て、真似してみたいという気持ちから行動し始める姿が多く、保育士との信頼関係が子どもの意欲に大きく関わっていると感じた。

2歳児は、感触や香りを表現する言葉や、指先や手のひら全体を使って皮むきをする様子から、身体の様々な発達を感じることができ、食育を通して発達を促すことの可能性を再確認することができた。とうもろこしは、1本のなかで様々な色や感触があり、五感をフルに刺激できる題材なので、毎年楽しみな旬の食育活動である。

## 【夏野菜】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・写真や絵本を多く目にする機会を増やせるようにした。
- ・給食で夏野菜を提供するたびに、その野菜を意識できるよう、気づきを与えられるような声掛けをしていた。
- ・夏野菜を数種類購入。

### 探究活動の実践

7月下旬～8月

夏野菜の導入開始。

食育活動で使用する夏野菜(かぼちゃ・ピーマン・トマト・きゅうり・なす)を題材とする絵本や紙しばいを読みながら、野菜の名前や色を覚える。お部屋に写真を貼り、日常的に目にする機会を増やしていく。

8月

夏野菜をテーマにした食育活動を実施。

野菜を表現する手遊びと、たくさんの野菜が見れる絵本で活動に繋げた。

数種類の夏野菜に触れ、いろいろな色や形があることを知った。

夏らしくジャブジャブと野菜を水洗いしながら涼しさを感じ、その後かぼちゃとピーマンの種を取り、その日の夏野菜カレーの準備を手伝った。

給食では、活動で触れた夏野菜がたっぷり入ったカレーを提供。具材を探しながら、「かぼちゃあった!」「ピーマンあった!」と喜び、ひとつひとつの野菜の存在を確認して味わっていた。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

1歳児は、野菜に触れるところでは警戒心があったが、水で洗う活動に入ると、積極的に参加するようになり、夏らしく水の気持ちよさを感じながら楽しく夏野菜に触れることができた。

2歳児は、導入の手遊びをととても楽しみながら野菜の名前を覚えていた。

色当てクイズでは、いろいろな想像を膨らませながら自由に発言し、保育士も参加していろいろな表現を引き出す問いをしながら、一緒に考え楽しんでいた。

種を取りながら調理をする前の姿を知り、種の形や量の違いに興味深く観察していた。



### 振り返り

季節感が出るように水を取り入れた活動にしたことで、興味関心を引き出すことができた事と、水で野菜を濡らすことで、夏野菜の鮮やかさが増えて見えて、より子どもたちの目を引くことができ、色から野菜を連想しやすくなっていた。また、活動を大好きなカレーに繋げることで、食べる楽しさと、苦手な野菜を食べられた嬉しさも感じる事ができ、よく見えるかたちで食育のねらいを達成することができていたと思う。

## 【きのこ】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵本、手あそび、歌 を生活に取り入れて導入。
- ・数種類のきのこの写真を見せて、形や名前を覚えやすいようにした。
- ・きのこの購入。

### 探究活動の実践

8月下旬～9月

きのこの導入開始。

きのこを題材にした絵本を使い、きのこにはいろいろな種類があることを知る。  
きのこの歌を楽しく歌い、振り付けも覚えてお友達や先生と一緒に踊ることを楽しむ。

9月

きのこをテーマにした食育活動を実施。

3種類のきのこ(しめじ・えのき・まいたけ)を手に取り、形の違いときのこの名前を知った。

子どもたちが細かく割いたきのこを集め、目の前できのこあんかけを作った。  
煮立てる音や湯気、料理の香りを感じてお腹を空かせる。出来立てのあんかけを、その日の主菜の魚にかけて配膳し、そのまま給食に繋げて味わった。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

1歳児は、手指を自由に動かして手あそびをニコニコと楽しそうにやっていた。

本物のきのこに触れるときは、怖がったり警戒したりする姿が見られたが、保育士と一緒に少しづつ慣れていっていた。

2歳児は、「きのこのうた」をととても気に入って、活動中も活動後も楽しそうにお友達同士で歌ってはしゃぐ姿が多く見られた。目の前で調理の実演を行ったことで、見た目や香りからより興味を引き、食べたい意欲を高めたまま給食の時間に繋げることができた。生のきのこに触れている時も調理の実演の時も、それぞれのきのこの形や名前の違いを保育士と話し、食べることを楽しみにする気持ちを言葉にして表現していた。



### 振り返り

旬のきのこは香りが強く、活動中に園内がとても良い香りでいっぱいになったことで、隣のクラスや職員も喜んで、食育の日ではなかったクラスの子どもたちも一緒に食育ができた感覚になるという、思いがけず良い影響があった。特に2歳児クラスでは、活動後もしばらく「きのこのうた」を子どもたち自ら歌っていて、給食にきのこが出るとすぐに気が付いて喜んで食べていたので、活動が印象深く子どもたちの生活の一部になっていたことを嬉しく思った。

## 【いもほり】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・手あそび、紙しばい、絵本を使って導入。
- ・紙とビニール紐を使ってさつまいもに見立てた製作物で、いもほりごっこを練習しながら楽しんだ。
- ・いもほり後の焼きいもごっこに使う新聞紙をちぎり、落ち葉を拾った。
- ・さつまいもと土を購入。

### 探究活動の実践

9月下旬～10月

さつまいもの導入開始。

いもほりや焼きいもに関連した絵本や紙しばいを読む。

焼きいもを手遊びを楽しんで覚える。

つる付のさつまいもを模した制作物を使って遊ぶ。

食育活動で使用する落ち葉を外で集めてきたり、新聞紙をちぎったりする。

10月

いもほりをテーマにした食育活動を実施。

絵本や手遊びを楽しんだあと、外で芋ほり体験をする。

本物のさつまいもに紐を巻き付けつるに見立て、画用紙で作った葉を付けて土に埋め、さつまいも畑を準備した。

つるに見立てた紐を子どもたちが引っぱりさつまいもを抜くことで、芋ほり体験をすることができた。

そのさつまいもを使って、おやつ時には焼きいも会を実施。調理したさつまいもを丸ごと1本ずつアルミホイルに包んだものを、あらかじめ子どもたちが準備していた落ち葉と新聞紙の中に隠して、そこから子どもたちが探し出す。

さつまいもは調理後温かいままアルミホイルに包んだので焼きいもの温かさも再現。アルミホイルを剥がして中身を出す過程も、味わう時間も、みんなで楽しく共有することができた。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

1歳児は、手あそびを保育士と一緒にニコニコと楽しそうにやっていた。芋ほり体験は恐る恐るやってみる子もいたが、最初から興味を持って積極的に取り組めた子が多く、掘り出した芋を不思議そうに見ていた。

2歳児は、思った以上に力があり、埋めた芋が簡単に抜けてしまっていたので、途中で少し圧をかけて土をかぶせ、頑張って抜く手ごたえを体験できるように工夫した。午後の焼きいもごっこでは、新聞紙と落ち葉にかくれた芋を探すことに夢中で、保育士と一緒にとても盛り上がり、みんなで笑って楽しんでいた。アルミホイルで包んだ芋は温かく、ほかほかの焼きいもを丸ごと頬張り、おいしいおいしいと喜んでいました。



### 振り返り

日頃から畑に触れることができる環境ではないため、より本物に近いものを子どもたちに体験させてあげたいと思い、制作等の工夫を考えた。土から野菜を掘り出す活動は、子どもの興味を引き、好奇心を持って夢中で取り組んでいた。掘り出した形そのままを食べるといった活動の流れも、今までなら皮を気にして食べなかったり、保育士に剥いてもらったりしていたが、躊躇なく丸かじりする姿がとても頼もしく、芋ほり体験から食べる意欲を引き出すことができたと感じた。

## 【お米】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ お米を題材にした絵本や紙しばいを導入。
- ・ 給食時には、お米の話題を出し、活動当日を楽しみに待てるようにした。
- ・ お米を入れるペットボトルを準備。
- ・ お米を購入。

### 探究活動の実践

10月

お米の導入開始。

お米(ごはん)を題材にした絵本や紙しばいを読む。

給食やごはんが出るときには、お米の旬が秋であることや、お米屋さんの話題を多く話すようにする。

11月

お米をテーマにした食育活動を実施。

近隣のお米屋さんへ行き、大きな精米機でお米を精米する一連の様子を見せてもらった。

米ぬかや、玄米と白米の違いを見せてもらったり触らせてもらったりした。

精米したてのお米を袋に詰めてもらい、保育園に持ち帰った。

1歳児は、お米を入れたペットボトルに水を入れ、振る音と水の色の変化を観察し、

2歳児は、ザルにお米と水を入れて手でかき混ぜながら、その感触と水の色の変化を観察。

炊飯の間にふりかけ作りをして、炊き立てのごはんにかけて食べた。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

1歳児は、ペットボトルにお米と水を入れて振ることで、音を楽しみながら見た目の

変化も観察することができ、飽きずに集中できていた。ふりかけ作りを取り入れた

ことで、普段は白米のみしか食べない子も、ふりかけごはんを喜んで食べていた。

2歳児は、お米屋さんに行くことをとても楽しみにし、いつものお散歩よりも長い

距離だったが、一生懸命歩くことができた。お米屋さんでは、初めて見る大きな機械

に喜び、保育士と一緒に落ちて興味深くお話を聞いたりお米や米ぬかを触らせて

もらったりと、たくさんの経験をさせてもらった。帰園後の洗米では、感触と水の色

の変化を保育士と共感しながら興味深く観察し、作ったふりかけで、いつもよりも

ごはんをたくさん食べていた。



### 振り返り

洗米の方法をクラスごとに変えたことで、子どもたちの年齢で違いがある興味関心の部分を

それぞれのクラスで引き出せたと思う。今回はいつもの食育活動よりも工程が多く時間も

長めだったが、特に1歳は短いタイミングで区切ってテンポよく進める工夫をしたため、

最後まで飽きずに取り組み、最終的に食欲を高めることに繋がれたのが良かった。

2歳児は地域交流も含めた活動を実施することができ、来年度にも繋げたいと思う。

実際の店舗に行って、お店の方との交流や、初めて見るもの触れるものをいろいろ経験できた

ことで、しっかり記憶に残すことができたようで、日頃の会話で精米機を見たときの話を

子どもたち同士や職員に対して話す様子もあり、実際に体験することの大切さを改めて感じた。

## 【クリスマスケーキ】

### 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・製作物やクリスマスツリーを飾って、部屋をクリスマス仕様にした。
- ・クリスマスの絵本や歌で導入。
- ・サンタ、トナカイ、クリスマスケーキのペープサートの作成。
- ・ケーキの材料を購入。

### 探究活動の実践

11月下旬～12月

クリスマスの導入開始。

クリスマス会へ向けて、製作物やサンタさんへの手紙を用意したり、クリスマスツリーをみんなで飾る。絵本や歌でクリスマスの雰囲気盛り上げていく。ケーキ作りを話題にして楽しみにする。

おままごとでは、ケーキにいちごをトッピングして飾るなどを経験しておく。

12月

クリスマスケーキ作りの食育を実施。

クリスマス会を開催した日のおやつ時、全員で賑やかにいった。

いちごを練りこんだスポンジケーキ、ホイップクリーム、飾りのカラスプレー、いちごをそれぞれ準備し、そこから組み合わせて子どもたちが自分のケーキを自由に作った。

クリスマス風に飾ったテーブルで、完成したケーキをみんなで楽しく食べた。

(活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

午前中にクリスマス会を実施したこともあり、クリスマスの気分を保ったまま、ケーキ作りの活動に入ることができ、子どもたちはとてもワクワクしていた。行事を盛り上げるために、2クラス合同で賑やかに活動できるように配置の工夫をしたので、子どもたちもみんなできると喜んでいて、1歳と2歳では活動内容の難易度を変えたが、各クラス無理なく、2歳は特に自分で自由にやってみることを大切に、保育士にアイデアを伝えたり、できたものを見せて褒めてもらうことや達成感を楽しんでいたりする姿が多く見られた。1歳は保育士と一緒に作り上げていくことを楽しみ、特別感のあるおやつを喜んで食べていた。



### 振り返り

1歳児は主に保育士と一緒に楽しんで作ることで愛着を深め、満たされた気持ちでおいしく食べることで、2歳児は自由な発想で作り上げる達成感や、それを認めてもらう喜びのなかで、お友達と行事を楽しみながら食べることで。

保育園の食育で目指す「食を営む力を育てる」という部分で、乳児では特に「愛着による人との関わり」「食からの心身の健康」が大切だと思っているので、行事を通じた食育でその目標に近づけられるのはとても有意義だと感じた。行事に絡めた食育ではいつも気に留めていることではあるが、クラスを合同にして賑やかにいき、みんなで行事の楽しさを共有することで、より一層その効果があると感じた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                      |
|-------|----------------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園            |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10グレイス1 1F |
| 法人名   | 株式会社ライフらび            |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「知育」小学館メソッド 「五感」で楽しむ楽習活動・色

<テーマの設定理由>

日頃水分補給に使用しているカラーコップの色に興味を持ち、「この色がいい」「私は赤がいい」「ぼくは青で飲みたい」などと、自分の好きな色にこだわる姿が見られるようになったことをきっかけに本テーマ「色」を設定した。

## 2. 活動スケジュール

- ・絵本で「どんな色がすき」を歌いながら色を知る。
- ・散歩で目にした車、看板、花などの色を見つける。
- ・色水あそびで色を混ぜ、変化の様子を楽しむ。
- ・栽培している「紫蘇」の葉を収穫し、葉を揉むと葉から色がでることを楽しみ、更にジュースにすると色が変わることを楽しむ。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 《素材・道具・環境》
- ・「いろいろばあ」の絵本
  - ・三原色の色水（絵の具で調整したもの）
  - ・透明カップ
  - ・ペットボトル
  - ・紫蘇の種
  - ・歌や絵本は繰り返し歌ったり、絵本も読み聞かせを繰り返し行った。
  - ・紫蘇は種をまいた後、当番制で水やりをして成長の観察を行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・三原色の色水を混ぜ合わせ、色の変化を楽しみながら自分の好きな色を作り、ペットボトルに入れてジュースに見立ててお店屋さんごっこで使用した。

・食育の一環として紫蘇を育て、収穫した葉をビニールに入れ、揉むことによって葉から出てくる色を見て楽しみ、ジュースにすることで更に色の変化を感じ、味わう経験ができた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・色水あそびでは、2つの色を混ぜることで違う色に変化すると「変わった!」「さっきと違う!」と子ども同士で話をしながら変化を楽しむ様子が見られた。自分で色水を混ぜる時には、少しずつ入れて色の変化を楽しむ、混ざりあった色水を更に混ぜるをくり返し試す、混ぜていないコップを色画用紙の上に乗せて上から覗いた時に色が変わって見えることに気付くと、たくさんの驚きや発見を楽しむ様子が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

2色を混ぜるとこの色になる、混ぜる分量によって同じ色でも濃さが違うなどの気づきが楽しかったと思われる。3色の絵の具の色だけでここまで夢中になって楽しめるとは思っていなかった。保育士が特別な指導を行わなくても、子どもは自分で考え、見て、触れて、試すをくり返して驚きや発見を楽しんでいる。保育士が少しのきっかけを作ることで子どもはどんどん広げていく。保育士は子ども一人ひとりの気づきや言葉を受け止め、その思いが遊びや探究へとつながるように見守り、共有していくことが大切だととても感じた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園              |
| 施設所在地 | 大田区蒲田4-40-10 グレイス 1 1F |
| 法人名   | 株式会社ライフらび              |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「知育」小学館メソッド 「五感」で楽しむ楽習活動・自然

<テーマの設定理由>

- ・本園の保育指針である「花や小さな生き物にふれるなどの自然体験を通して感受性や五感に刺激を与える保育」を基盤に設定した。散歩時の自然との関わりの中で子どもたちの不思議に思う気持ちを大切に、小さな命に触れる経験から命を大切にする心を育みたいと考えた。
- ・アリが好きな子が多く、散歩時にアリの巣を見つけて楽しんでいた。「どこに行くのだろうか」と巣の中まで興味を持っている姿が見られたため設定した。

## 2. 活動スケジュール

- ・アリの観察キットを設置する。毎日観察を楽しむ。(7月～9月)
- ・バッタの観察(8月)
- ・戸外でセミを観察し、図鑑で調べる(9月)
- ・保育室内に画用紙で作った木を貼り、季節の虫や草木の写真を掲示する(9月～)
- ・虫眼鏡と探検バッグを持って散歩(10月～)

### 【準備物】

- ・アリの観察キット
- ・虫眼鏡
- ・探検バッグ
- ・虫かご

### 【環境設定】

- ・保育室内にアリの観察キットと虫かごを設置し、子どもたちがいつでも観察できるようにした。
- ・虫眼鏡を用意し、気になる物を大きく近くで観察できるようにした。
- ・安全に探検できるように危険な場所を事前確認した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・アリの巣を修復したり、広げたりする様子を観察する。
- ・バッタを観察し、食べられる草を調べて散歩時に拾って帰った。
- ・虫かごと探検バッグを持って出かけ、自然物を観察したり触れてみたりした。見つけた虫を帰園後に調べた。
- ・セミの抜け殻を集めたり、セミを探して観察したりした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・公園でアリを見つけたことをきっかけに周囲を探したり、動きを追ったりする姿が見られた。動きの速さに驚く子や、ゆっくり動くアリに気付く子、黒の濃淡の違いに気付く事もあった。捕まえられないもどかしさや面白さから踏もうとする姿も見られ、命との関わりを考える機会となった。
- ・アリが巣を作っている様子を見て、「こんなに広がってる」「ご飯を運んでいるのかな」と考えながら観察を楽しんでいた。
- ・「バッタさん何食べるのかな」と自ら調べようとし、散歩時に食べられそうなものを見つけると「これあげようか」と嬉しそうにしている姿が見られた。暑さで元気がない時には「大丈夫かな」と心配する姿も見られた。
- ・保育士は子どもの気付きや疑問に共感しながら共に考える姿勢を大事にした。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちが興味を持った物に対して、共感し、一緒に考えてみると遊びが広がっていき、時に保育士よりも子どもの方が詳しくなることもあり、面白さを感じた。
- ・生き物を踏もうとしていた児も観察を続けていくにつれて少しずつ生き物という事が分かり、優しくする姿が見られた。
- ・自然物で遊ぶこともできるようになってきて、虫眼鏡を持って探検すると色々な物を見つけて共有することができた。自然を通じて子どもたち同士の会話も生まれていたの良かったと思う。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 施設名   | 蒲田らびっと保育園           |
| 施設所在地 | 田区蒲田4-40-10 グレイス1 1 |
| 法人名   | 株式会社ライフらび           |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「知育」小学館メソッド 「五感」で楽しむ楽習活動  
数字とひらがな

<テーマの設定理由>

・小学館メソッドの中で触れた数字やひらがなの歌に興味を持っていたため。

## 2. 活動スケジュール

- ・数字の歌で数の順番を知る
- ・物の数を数えてみる
- ・自分の名前のひらがなを知ろう
- ・絵本で自分のひらがなを探そう

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵本：すうじのうた
- ・日常の保育の中で見つけた物の形を問いかけ、子どもたちが色々な形を見つけることが出来るようにした。
- ・すうじのうたを絵本を用いて一緒に歌った。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・すうじのうたを歌ったり、すうじのうたの絵本を読む。
- ・絵本を一緒に読む中でひらがなを伝えていく。
- ・日常の中で数字を意識することができるように声かけをする。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・すうじのうたで数字を覚えることができ、時計を見て「12のところになったね」と言っている姿が見られた。
- ・絵本をゆっくりと一緒に見て、ひらがなを指差し、「これは“い”だよ。〇〇ちゃんと同じ字だ!」と嬉しそうにしている姿が見られた。
- ・ひらがなが読めるようになってきた子が、まだ少し難しい子に優しく教えてくれている姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ひらがなに興味を持ってから絵本を見てたくさん質問をしてくれるようになり、質問に答えると次に同じ本を読んだときにしっかりと覚えてくれている姿が見られた。すぐに吸収し、ゆっくりだが、自分で目と指を使って追い、絵本を読もうとする姿が見られた。
- ・すうじのうたで覚えた数字を日常生活で見つけて楽しむことで、楽しく学ぶこと